



基本理念
 私達は、医療に携わる人間として、情熱と誇りと博愛の心を持ち、意欲ある医療活動を展開していきます。
 独立行政法人
 国立病院機構高知病院

編集●独立行政法人国立病院機構高知病院広報誌編集委員会／代表●大串文隆／住所●高知市朝倉西町1丁目2番25号／電話 088-844-3111／FAX 088-843-6385

病院の活性化を



NHO高知病院 院長
大串 文隆

今年の猛暑は厳しく、熱中症で救急受診される患者さんがとても多かったように思います。高知県四万十市西土佐江川崎では、今までの最高気温となる41℃が記録され話題となりましたが、一方、今まで最も暑い町であった埼玉県熊谷市、岐阜県多治見市の人が落胆しているとの報道もありました。多くの人が昔はこんなに暑くなかったと言いますが、確かに気候は変化してきているように思います。局所的な集中豪雨も各地にみられ大きな災害となっていますし、竜巻による被害も報告されています。

このような現象は日本中どの地域においても発生する可能性があり、近い将来起こると言われている南海大地震のみならず、様々な災害に対応できる病院でなければなりません。災害対応の講習会もDMATのメンバーを中心に開催されており、災害に対する職員の知識や意識も上がってきていますが、災害拠点病院としてより一層充実するよう努めていきたいと思っています。

災害対策を含め、病院機能を発展させていくには病院の活性化が不可欠です。先日、中国四国ブロックの講演会で済生会福岡総合病院の岡留先生から病院活性化のためにというタイトルでお話を伺いました。福岡済生会病院は病床稼働率93%、平均在院日数10.5日の急性期病院で紹介率78%、逆紹介率87%、一日入院単価も極めて高く、非常に活力のある病院です。このような病院にするためにどのような対策をたて、取り組んできたかということについての内

容でした。病院は非営利組織ですが、非営利組織とは特定の使命や目的を人々の協議を通じて達成していく持続的な組織体です。「非営利組織の大きな強みは、人々が生計のためにではなく、大義のために働いているというところにある。そして、この事実が、非営利組織を維持し、仕事を単なる雑務にさせてはならないという大きな責任をもたらす。」とDruckerも述べています。また、非営利組織の役割として組織の使命を果たすこと（使命、目的の達成など）、働く人を活かす（人材育成、職員のための人事制度の構築など）、組織の継続（計画経営、経営の健全化、情報公開など）が挙げられています。

まさに、これらの役割は、非営利組織である高知病院が行おうとしていること、行わなければならないことを表しています。高知病院も10月で開院13周年を迎えましたが、初心に返り、大義のために働いていることを自覚したいと思います。病院の使命を明確にして実践するためには病院の活性化は避けて通れません。職員の皆さん一人一人が高知病院の職員であることを自覚し、アイデアを出しあい、病院活性化を進めてほしいと思っています。発展する組織とは価値観を共有する人達の集まりであると言われています。東京オリンピック招致におけるプレゼンターの活躍がしばしば報道されました。まさに、一つのチームとして力を合わせ、同じ目的に向かって進んだ結果ではないかと思います。

私達も価値観を共有し同じ目的に向かい、病院を

新任医師紹介



放射線科医師 片岡 優子

随分と過ごしやすい季節になりましたね。皆様いかがお過ごしでしょうか。

この度9月1日より放射線科に赴任いたしました片岡優子（かたおか ゆうこ）と申します。姓、名ともに特に目立った様子のない名前でございます。

わたくし、生まれも育ちも高知県、大学という県外に出るチャンスも逃し、今に至るまで高知県から出たことがない純高知産です。一言でまとめると、高知が好き、ということでしょうか。放射線科という穴ぐらでの業務を生業としていますが、実際は屋外活動が好きで、今年の夏は日本最高気温を記録した四万十市西土佐に行き、泳いで肉も焼きました。

国立病院機構高知病院では、うん年前の初期研修での小児科で大変お世話になりましたが、再度自分の専門分野として勤務させていただけることを大変嬉しく思っています。当科ボスの小松先生をはじめ、たくさんのエキスパートの先生がおられる病院で、技術を磨き、少しでも皆様のお役に立てるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

災害対応型カップ自動販売機 の設置について



企画課長 久保田 克也

平成23年度に高知県の災害拠点病院に指定されて以降、その使命を果たすため日本DMATチームの複数配置、医薬品・医療材料及び飲料水の備蓄、トリアージを含む防災訓練等、大規模災害に対する備えを行ってきました。

その一環として、平成25年9月9日に株式会社アベックス西日本と「災害時における提供協力に関する協定書」を締結し、災害対応型紙カップ自動販売機を1階ロビーに設置しました。

この協定は、当院と株式会社アベックス西日本の相互協力により、地震等による大規模災害が発生し、当院に災害対策本部が設置された場合、飲料及び物資の提供協力を行うことを目的としています。

今回設置した災害対応型紙カップ自動販売機は、1万杯まで無償で通常の飲み物、お湯、水が提供されるもので、災害により水道のライフラインが途絶



えたとしても、給水車の水等を利用することにより、飲み物が提供される構造となっています。

更に、紙カップやトイレットペーパーその他の物資の提供も協定書に盛り込んでおり、災害時には非常に有用だと考えております。

高知県では南海トラフを震源とする巨大地震が起こった場合、大規模な被害が予測されており、今後も高知県の災害拠点病院として、災害に対する万全な体制を整えていきたいと考えています。



リニアック(高エネルギー放射線治療装置)の ご紹介



副診療放射線技師長 新地 正美智

当院ではリニアック装置を更新し、本年8月より稼働しています。今回導入した機種（Varian CLINAC iX）は、最近発展の目覚ましい高度放射線治療に対応した高精度、高出力機であり、最新鋭の技術を搭載したものです。

高エネルギー放射線治療においては、照射範囲や照射線量の決定に厳重な管理が必要ですが、当院においても厳重な管理の下、乳がんや肺がん等の病巣に対して治療を行っています。



副作用を抑えた放射線治療

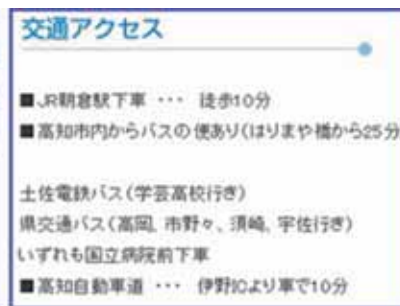
今回導入した装置では、副作用を抑えた精度の高い放射線治療が可能です。複雑な形状の腫瘍に対して、その形状に沿った照射が可能となり、2次がん発生の低減に威力を発揮します。

また、治療直前のエックス線撮影、透視、CT撮影も行うことができ、これらの体内画像に基づく正確な位置決めにより、精度の高いIGRT（画像誘導放射線治療）を行い、肺などの呼吸性移動を伴う臓器に対しては、再現性の高い治療が可能となっています。

また、がんによる疼痛コントロール等にも放射線治療を用いており、生活の質（QOL）を保ちながらがん治療を受けられるよう、緩和ケア療法にも積極的に取り組んでいます。

高線量率密封小線源治療との併用治療

本装置では、体外照射治療に限らず腔内照射治療が可能であり、注意臓器や正常組織を立体的に避けた線量分布の作成ができるため、悪性組織への照射線量の増加や合併症の軽減が図られ、機能、形態の温存に威力を発揮します。





医療マネジメント学会に参加して



副看護師長 山崎 智恵

平成25年8月18日、第11回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会がありました。高知県内の様々な病院から、医師、看護師、臨床検査技師、薬剤師、臨床工学技士、栄養士、理学療法士などが参加しており、質疑応答も活発に行なわれていました。

今回、私は演者として、医療安全の分野で「平成24年度 転倒転落事故防止グループの取り組み」を発表してきました。転倒転落事故防止グループでは、「1. 転倒転落事故防止ラウンドの実施」「2. スタッフに向けた情報発信」を目標に取り組みを行なった結果、院内の転倒転落のインシデント報告件数は、平成23年度は277件、平成24年度は216件でした。月平均では、平成23年度は23件、平成24年度は18件と、5件減少しており、骨折事例は9件から4件に減少しており、転倒転落件数の減少とともに骨折事例も減少していました。今後もラウンドを定期的に行い、

タイムリーな情報発信を行うことで、各職場の環境整備や患者の身体状況に合わせた環境調整の充実を図り、転倒転落による骨折事故を防ぐよう取り組みたいと思います。

特別講演では、自治医科大学医療安全対策部の長谷川剛先生から「ギャップアプローチとポジティブアプローチ」というテーマでご講演がありました。これまでの問題解決型アプローチでは、疲れる、ネガティブな感情を生み出しやすいという欠点がありましたが、先生のご講演を聞いて、インシデントレポートが提出されたら、どうやってこのミスを発見したのか？とあえて良いところを見つけてみることも大事だと学びました。この視点を取り入れて、インシデントの分析や対策を行う際に取り入れていきたいと思っています。



職員の異動

採用

放射線科医師 片岡 優子 9月1日付

退職

准看護師 山崎 君好 7月31日付

呼吸器科医師 中野 万有里 9月30日付

転出

看護師 高橋 梨沙 9月1日付

助産師 奥迫 愛由美 10月1日付



中国四国地区国立病院・ 国立療養所看護研究発表会に参加して



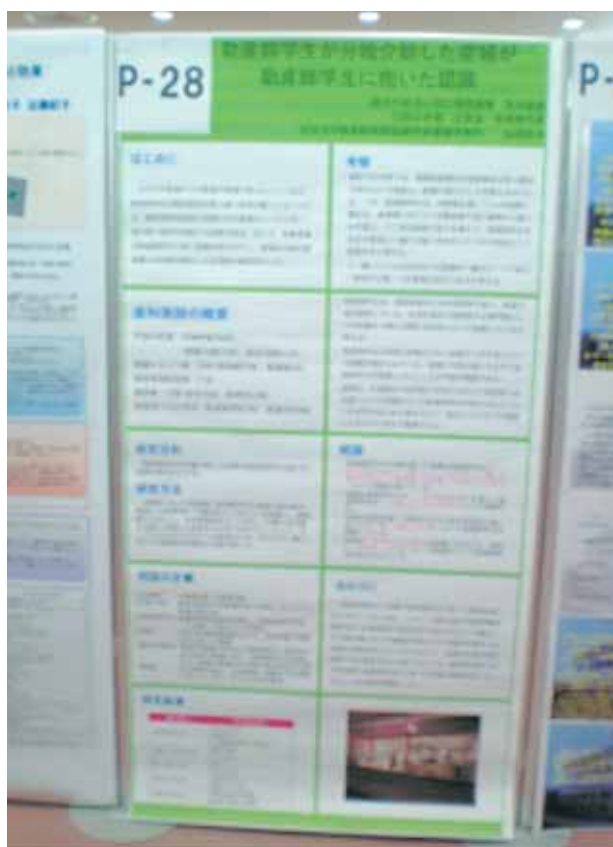
助産師 西山 木梢、江見 遥

平成25年9月14日(土)に広島国際会議場で開催された第9回中国四国地区国立病院・国立療養所看護研究発表会に参加しました。私は「助産師学生が分娩介助した産婦が助産師学生に抱いた認識」というテーマで発表しました。当院は実習受け入れ病院であり、産科病棟には助産師学校3校、看護学校4校の学生が実習に来ています。現在、分娩施設の減少や少子化、分娩へのニーズの多様化に伴い、臨地実習を取り巻く状況は厳しくなっています。その中で私たち臨床実習指導者は産婦やその家族のニーズを保証し質の高い実習を実現する必要があります。今回の研究結果から助産師学生が分娩介助した産婦

は「丁寧な助産行為」「一緒にいてくれる存在」「親しみ頼れる存在」「学習者への応援」「未熟さへの不安」という認識を抱いており、私たちは助産師学生への肯定的感情を増幅させると共に、対象産婦の否定的感情への軽減への努力が必要であることが分かりました。

会場ではたくさんの研究発表があり、私が所属している周産期以外の領域での研究発表もたくさんみることができました。普段周産期領域に関する研究や情報に触れることが多いため、他の領域の研究結果を知ることができてとても興味深かったです。また、ディスカッションの時間も設けられており、直接話すことで研究への理解をより深める事ができたと共に、自身の研究を客観的にみることができました。研究の視点や方法、発表方法も参考になりました。

今回の研究発表を通じて得たことを活かし、今後の看護がより良いものになるよう努力していきたいと思います。



〈発表用のポスター〉



〈会場は平和記念公園の敷地内〉

ME機器管理室の取り組み

臨床工学技士 杉本 攻



今年の9月12日に除細動器とベッドサイドモニタの新機種導入に伴う勉強会を開催しました。勉強会には多数のスタッフに参加していただき、操作方法や注意点などの講習を実機を用いて行うことができ、充実した内容であったと思います。

ME機器管理室の取り組みとしては、このような勉強会を定期的で開催し、医療機器の安全な運用を図るとともに、人工呼吸器をはじめ、輸液ポンプやシリンジポンプ、低圧持続吸引器などの医療機器の点検・保守管理を行っています。

医療機器の保守・管理とは、まず日常的な点検と定期点検に分けられます。使用を終え、戻ってきた機器を清拭し、動作点検を行い、次回使用に準備するのが日常点検です。定期点検となれば、機器の内部を開け、バッテリーなど消耗部品を交換し、正常に作動するか、例えば除細動器などは点検機器を用いて、実際にエネルギー出力の数値を計測しますし、輸液ポンプやシリンジポンプなどは輸液量が正確かどうかの実測を行ったりします。

定期点検は、まず、患者さんに使用する時の安全性を確保するのが重要ですが、長期的に使用できる様にすることで、医療機器に対するコストを抑える事も重要な目的の一つです。

医療機器は日々進歩し、高機能な機器が増えてい

ます。機器に携わる臨床工学技士として、機器に対する技術・知識を向上させ、勉強会等を通して安全な機器の操作・運用することで安全で快適な医療を患者さんに提供出来るよう日々頑張っていきたいと思っています。



褥瘡対策チームの紹介

副看護師長（皮膚・排泄ケア認定看護師） 竹内 真弓



褥瘡はいわゆる床ずれのことで、長時間の圧迫により皮膚が壊死することによって生じます。高齢による活動性の低下や、失禁・皮膚の摩擦、栄養状態の低下など様々な要因により発生することが知られています。

高齢化社会を迎えたわが国では、褥瘡の発生率も増加しており、社会問題となっています。そのため、平成24年度の診療報酬改定により、生活自立度の低い患者さんや褥瘡のある患者さんは、入院時にその状態を評価し適切な褥瘡対策を行うことが義務化されています。

当院の褥瘡対策チームは、皮膚科医師、管理栄養士、薬剤師、皮膚・排泄ケア認定看護師の4名で構成されており、毎週金曜日に褥瘡回診を行っています。

中でも皮膚科医師は褥瘡診療の中心を担っており、

治療方針を決定し、必要に応じて外科的処置や外用薬の処方を行っています。

管理栄養士は栄養に関するアセスメントを行い、栄養が不足している場合は補助食品を提案し、栄養指導を行っています。また、薬剤師は患者さんに薬剤の管理方法や使用方法を説明し、薬剤が正しく使用されるように努めています。

皮膚・排泄ケア認定看護師である私は、ベッドサイドで褥瘡を評価するとともに、具体的なケア方法を提案し、症例を通してスタッフ教育へつなげる関わりを心がけています。ちなみに、褥瘡の管理・評価には、当院皮膚科の三好医師が考案した専用のアプリを使用しています。

安心して入院生活が送れますように、今後も質の高い褥瘡ケアの提供を目指してチーム活動に取り組んでまいりたいと思います。



壊死組織があるので
軟膏を変えましょう

もう少しカロリー
アップが必要ですね

サロン「希望」も食欲の秋！

副看護師長（緩和ケア認定看護師） 佐々木 牧子



高知病院がんサロン「希望」は平成24年2月にスタートし、患者さんやご家族、ご友人などがこころの悩みや体験を語り合う場として、毎月開催しています。平成25年度は2か月に1回のペースでミニレクチャーを計画し、患者さんやご家族から好評をいただいております。

9月のサロン希望では、「がん治療中もおいしく食べられる食事」と題して当院の管理栄養士が講師となってミニレクチャーを行いました。9月の参加者は2回～数回参加している患者さん3名と初参加2名の合計5名の方が楽しく学び語り合いました。

栄養士から抗がん剤治療による「食に関連した副作用」が説明され、当院で抗がん剤治療を受けている患者さんからのアンケート結果をもとに栄養サポートチーム（NSTといいます）が中心となって考えられた「ライト食」が紹介されました。参加して

いた方は大きくうなずいたり、メモをとられたり質問をしたりと積極的に学んでいました。レクチャーで使った資料を1階受付ホールのサロン案内板に展示しておりますので、是非とも参考にご覧ください。

レクチャー後は参加者5名が自己紹介をしながら、自らの病状や経過、お気持ちなどを語り合いました。それぞれの方の体験や思いに「私もそう」とみんなで共感したり、「全然違うね～」と個々の違いに気づいたりしました。「来月もまた会いましょう」と参加者同士で約束し、サロンでの交流により勇気や元気がもれたかなと感じました。

今後もがん患者さんやご家族が悩みや希望をわかち合える場として、高知病院サロン「希望」を継続していきたいと思います。ぜひ、興味のある方は気軽にご参加ください。



医療安全管理室だより

—5S活動報告を終えて—



医療安全管理係長 山本 三恵

当院では医療安全管理活動として毎年5S活動に取り組んでいます。5S活動とは「整理・整頓・清掃・清潔・しつけ」の5つの頭文字をとっているもので、民間企業、特に工場などでは1980年代から積極的に取り入れている手法です。必要以上に物を置かない。誰でもすぐ分かる場所に物を置く、更に常に清潔に保つということを続けることで、探す手間を省いて作業効率を上げたり、不良在庫を抱えないためのコストを下げたりすることができ、最終的に企業の経済効率を高めるという効果があります。

医療の分野で考えると、コスト削減のほかに、物の定位置が決まってい、明確に表示されていることは物を取り出すときに誤って違う物を取り出すという危険の回避に繋がります。そして、誰でもすぐ分かる場所におくということは、緊急時に必要物品を取り出すときにその効果が発揮されと考えます。整理の中には医療機器の整理点検の内容も含まれ、医療機器の不具合による事故防止に繋がります。また、清掃・清潔は感染防止という観点から医療現場では重要なことと言えます。

このような取り組みを、6月～8月までの3ヵ月の間に各部署で検討・実施した結果を9月に報告を行いました。今年度は20の部署が5S活動に参加し、報告を行いました。各部署の取り組みテーマは表1



に示すとおりです。活動内容は各部署それぞれの特性を生かして、業務内容が類似した部署でも参考になったものと考えます。こうして頑張った活動や、工夫を凝らした活動にはその成果を称えるために投票を行いました。投票結果の3位までは掲示期間を10月中旬まで延長し、掲示場所は1階受付ホール前としました。より多くの方に、職員の医療安全に対する思いや、取り組みを知っていただけたら幸いです。

医療に携わるものとして、日々の業務における安全対策はもちろん、患者さんがより安全で快適に治療や看護を受けていただけるよう環境調整にも工夫を重ねております。今後はこれらの活動が継続されるよう願っております。

最後になりましたが、5S活動にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

●表1

1階南	スムーズな物品準備のために
1階中	カツオ人間が斬る
1階北・6階南・ 薬剤科・ME室	5S活動報告
1階外来	病棟の第2の玄関をきれいに 救急搬入口を美しく
手術室	気持ちよく入室してもらおう
3階南	すっきり素敵に
ICU	きちんとまとめて垂らしません
4階南	くりーん・あつぷ分娩室
NICU	きれいでい隊の活動報告
4階北	マダムレイコの華麗なる整理整頓
5階南	5南の3つの棚 ゴミナミクス
5階北	5北の小さなCHANGE
6階北	しつけに繋げる第一歩
療育指導部	「和みと想いのマップ」の 作成と環境調整
放射線科	本棚の整理整頓
検査科	採血管の有効期限
理学療法	パルスくんが足りない

感染管理室だより

—平成25年度 感染防止対策地域連携 第1回合同カンファレンスを開催しました—



副看護師長（感染管理認定看護師） 原 昭恵

平成25年9月27日、当院地域医療研修センターにおいて、平成25年度感染防止対策地域連携第1回合同カンファレンスを開催しました。当院は、感染防止対策加算1、感染防止対策地域連携加算の施設基準を取得しています。医療機関が連携して感染防止対策に関する取り組みを推進することを目的としており、要件の中には、加算1取得医療機関の相互評価や、加算2取得医療機関との年4回以上の合同カンファレンスなどがあります。

カンファレンスは感染対策を担当する医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師が参加することとなっており、当院及び連携医療機関である朝倉病院、上町病院、厚生年金高知リハビリテーション病院、永井病院より合計19名が出席し、意見交換を行いました。テーマは「院内の感染対策を考える」で、昨年度実施した加算1取得医療機関での相互評価で当院が指摘された内容についての現状や改善策等を提示することで他の医療機関における対策の参考にしてもらうことが目的でした。実施後には「具体的な内容だった」「明日から実践できそうな内容だった」等のご意見をいただきました。カンファレンスは近隣の医療施設の現状を知ることができ、自施設においては日頃の対策をふり返る機会ともなっています。

感染に関する現場の問題や様々な事柄について情報共有することで有効な感染対策につながるよう、連携病院と共に地域における感染防止対策の更なる充実に向け取り組んでいきたいと思います。



手作り リーフレット のご紹介



国立病院機構高知病院と連携している医療機関です

医療法人島本病院
院長 島本昭恵先生

診療科目
〈診療上の特色〉
外来診療では一般内科に加え、循環器科・呼吸器科・腎臓科・消化器科・泌尿器科のそれぞれ専門医（専攻）による診療を行っています。
また療養病床、129床を備え、医療・介護が密な力での長期入居療養や慢性期リハビリテーションを支援しています。
詳しくは下記HPにて
<http://www1.tcomnet.jp/shimamoto/>

外来診療時間

午前 9:00～12:30
午後 13:30～17:00

休診日：日曜日・祝日

月	火	水	木	金	土
午前	○	○	○	○	○
午後	○	○	○	○	○

アクセス

〒780-0841 高知市南堀2-6-3
TEL 088-873-6131
FAX 088-802-9613
電停「大橋通り」下車、北へ徒歩5分
ひろめ市場西隣

アクセス

丸の内線 高知駅
土佐女子駅
高知駅
高知市役所
高知駅前
大橋通り
Map data ©2013 Google, ZENRIN

島本先生のご挨拶

当院は昭和33年に開設され、昭和35年より病院を設け地域医療に尽力がらみ続けてきました。平成13年に新館を建設、また平成24年3月には本館耐震工事を完了しました。同是「防災協賛」の精神を受け、皆様に安心して入院療養いただけるよう職員一同、看護・リハビリテーション等に努力しております。外来部門では専門医を配し、国立病院機構高知病院とは高知医療センター・高知赤十字病院等と連携を図りながら、地域の皆様のお健康を守るためにつなげていく活動を行っています。

私達は、医療に携わる人間として情熱と誇りと博愛の心を持ち
意欲ある医療活動を展開しています

独立行政法人 国立病院機構 高知病院

地域医療機関の皆様へ

患者さんのご紹介・現在入院中の患者さんの問い合わせ・リーフレットについて 等…

088-828-4465

地域医療連携室までご一報下さい。 平日 8:30～18:00まで対応いたします。

地域医療連携室だより

地域医療連携室主任医療相談員 看護師長 秋森 容子



◆第5回地域連携連絡会◆

秋本番となり、猛暑の夏からやっと過ごしやすい季節となりました。

8月3日(土)に「第5回独立行政法人国立病院機構高知病院地域連携連絡会」が皆様のご協力のもと開かれました。この会の主旨は、「地域に親しまれ、信頼される医療機関」を目指す本院が、地域の病院や診療所の先生方と交流・意見交換をさせて頂くことで、相互の理解を深め、顔の見える連携を図ることです。

今回も各診療科の代表の医師たちが、診療科の紹介と診療実績やトピックスを発表し、その後意見交換会を持ち、実りのあるものとなりました。



◆高知県地域医療ネットワーク会◆

10月8日(火)に当院で高知県地域医療ネットワーク会が開かれました。この会の目的は地域医療連携に携わる者の交流や連携の強化を図り、急性期から在宅まで切れ目のないサービスを提供するためのネットワーク作りや地域の医療体制に沿った連携のあり方や目的達成のために必要な活動を行うことです。当院は今年度会長病院となり、MSW近藤を筆頭にスタッフ一同頑張って運営しています。

10月の研修会は、高知県立大学看護学部在宅看護学教授の森下安子先生をお迎えして「患者さんやご家族の意志決定を支える～チームで行う退院支援」をテーマに講演いただきました。急性期病院では、患者様が退院された後の在宅での生活がイメージできずに、意志の確認や必要な情報提供など意志決定を支えるための介入が遅れることがあります。病院は終の棲家にはなり得ないので入院初期から退院後の療養の場や生活を考えた関わりが必要です。森下先生は、それには地域医療連携室の努力も必要ですが、病院のコメディカルが患者



様ご家族と同じ目標を持ち支援できる病院力を持つことが重要であると話されていました。地域医療連携室に配属されて6ヶ月ですが、今後の私の仕事のあり方の支えになる講義を聞くことができました。

看護学校だより



オープンスクール開催しました

高知病院附属看護学校 教員 岡本 千晶



記録的な猛暑に見舞われた今夏、7月21日(日)、8月18日(日)に本校のオープンスクールを開催しました。7月には47名、8月には66名の高校生や社会人の方々にご参加いただきました。

1日の流れとして、午前中は、教員による学校概要と在校生による学校生活についての説明、そして模擬授業を実施しました。模擬授業は、7月は血圧測定、8月は呼吸の仕組みについての内容で、参加者全員真剣に話を聞いていました。

昼食時は、在校生が各テーブルにて参加者と談笑しながら、学校生活の細やかなところまで質問に答えるなど、楽しく有意義な時間を過ごしていただくことができました。



午後は衛生的手洗い・血圧測定・吸引・食事介助・沐浴の5つのブースに分かれて看護技術体験をしていただきました。



看護技術体験は、参加者が興味のあるブースに自由に参加してもらって在校生が個々に対応する形式をとったため、活気あふれる時間となりました。

特に、吸引や食事介助は体験したことのない参加者が多く、「体験したことがなかったのでとても勉強になりました」「初めての体験で楽しかった」との声もあり、興味をもって参加してくれていました。



在校生にとっても、原理原則や自身の実習での経験を踏まえ、手順や注意点などを説明することで、自分の技術を振り返る機会にもなったようです。

また終了後のアンケートでも、「先輩方は優しく教えて下さり、楽しみながら臨むことができて良い経験となりました」「学生の方がとても優しく、丁寧に教えて下さり、この学校で学びたいと強く思いました」との意見もあり、学生の力が感じられたオープンスクールとなりました。

今後も、看護師を目指す有能な人材の確保のために取り組んでいきたいと思います。



洗い残りやすい部位を
グリッターバッグで
確認してもらいました



在校生がサポートしながら
参加者同士で血圧測定を
実施してもらいました



3階の在宅看護実習室では
看護のモデルや教科書を
展示しました



外来診療担当医表

(平成25年10月1日現在)

■受付時間 8:30～11:00

整形外科 火曜日は予約患者のみの診察になります。
(新患、予約のない方は原則診察できません)

■休診日 土曜・日曜・祝日・12月29日～1月3日



独立行政法人
国立病院機構

〒780-8077 高知県高知市朝倉西町1丁目2番25号
TEL (088) 844-3111 FAX (088) 843-6385
http://www.hosp.go.jp/~kochihp

高知病院



診療科	区分・診察室番号	月	火	水	木	金
内科	1 診	⑫ 影本 開三	門田・岡野	香川・町田	板垣・三井	畠山・香西
	特別外来	⑪ 松森(糖尿病)	岩原(血液)	松森(糖尿病)	岩原(内科)	松森(糖尿病)
	午後 専門外来					
神経内科		⑰ 不定期(院内案内板に掲示しています。お電話にてお問い合わせ下さい。)				
呼吸器科 アレルギー科	1 診	⑧ 篠原 勉	大串 文隆 (リウマチ科も診察)	畠山 暢生	大串 文隆	岡野 義夫
	2 診	⑥			町田 久典	篠原 勉
	午後 専門外来				禁煙外来 14:00～15:30(予約制)	
消化器科	午前	⑨ 井上・板垣	三井 康裕	板垣 達三	井上 修志	三井 康裕
循環器科	午前	⑦ 山崎 隆志	西村 直己		山崎 隆志	
	午後 専門外来				ペースメーカー(第1木曜)	
リウマチ科		⑩ 松森 昭憲 (糖尿病も診察)	大串 文隆	大串 文隆		松森 昭憲 (糖尿病も診察)
小児科	1 診	① 小倉 英郎	小倉 英郎	武市 知己	小倉 英郎	大石 尚文
	2 診	② 大石 尚文	井上 和男	大石 尚文	井上 和男	高橋 芳夫
	3 診	③ 武市 知己				小倉由紀子
	午後 専門外来	神経・発達障害	アレルギー 特殊予防接種	乳児検診	アレルギー・化学物質過敏症 NICUフォローアップ	神経・発達障害 乳児検診
	予防接種	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)	14:30～15:30 (予約制)
外科	午前	⑤ 大塚 敏広	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	山崎 誠司	福山 充俊 (乳がん検診も実施)	井川 浩一
	午後 専門外来		福山(乳腺外来) 大塚(胃ろう・ヘルニア外来)		日野・福山 乳腺外来	
整形外科	1 診	① 篠原 一仁	兼松 次郎	小林 亨	篠原 一仁	林 二三男
	2 診	②			(田村 竜也)	
脳神経外科	1 診	⑧ 中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	中城 登仁	非常勤 10:00～
	2 診					
呼吸器外科	午前	⑦	日野 弘之		日野 弘之	
小児外科	午前	⑤				
皮膚科	午前	⑬ 三好 研	三好 研	三好 研	三好 研	三好 研
泌尿器科	午前	⑨ 渡邊 裕修	笠原高太郎	渡邊(奇数週) 亀井(偶数週)	笠原高太郎	渡邊 裕修
産科	午前	③⑤ 滝川 稚也	福家 義雄	福家 義雄	小林 文子	
	午後					
婦人科	午前	③① 福家 義雄		小林 文子	滝川 稚也	当 番 医
		原田 裕子				
眼科	午前	②⑧ 戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子	戸田 祐子
耳鼻咽喉科	午前	⑬ 近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野	近藤・中野
	午後 専門外来		14:00～(予約制) 嚥下・睡眠時無呼吸外来			
リハビリテーション科						
放射線科		小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久	塩田 博文	小松 幸久

※内科の1診は、月曜日から金曜日まで全て、医師1名担当の交代制となっています。
※市町村発行のクーポン券を利用される乳がん検診は、平日の午前中外科外来にて行っています。